

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	滝川市こども発達支援センター		
○保護者評価実施期間	令和8年1月5日	～	令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	71	(回答者数) 31
○従業者評価実施期間	令和8年1月5日	～	令和8年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・多職種が協働して、お子さんへの支援計画を検討することができる。	・支援計画書作成時、多職種で支援内容を確認しており、様々な視点から内容を検討することができる。	・専門職が増えており、より専門性の高い内容で意見交換をしていけるように努める。
2	・個別支援に加え、未就学児では小集団(グループ)での支援を行っており、お子さんに合わせたプログラムを提供できる。	・お子さんの状況に合わせて環境を調整している。 ・個別支援の中で集団を意識した関わりを行っている。 ・未就学児のみの小集団での支援も取り組んでいる。	・必要に応じて多職種でお子さんへの支援を行っていく。
3	・利用しているお子さんが通所を楽しみにしている。	・お子さんや保護者様の状態に合わせて、配慮や工夫をしている。 ・専門職において楽しみながら支援を行うよう努めている。	・お子さんの状況を多職種で確認し、より楽しめる活動を提供していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・利用児の通所回数が少ない。	・通所児童数が増加している。 ・職員の退職や変更等により、特定の職員が受け持つ担当児が増加してしまった状況がある。 ・事務作業が多く時間が取られてしまう。	・指導担当の新規職員が担当児を増やすことで、特定の職員の負担が減り、通所頻度の変化に繋がる可能性がある。 ・事務業務等の効率化を図り、指導業務等の時間を増やしていく。
2	・言語面等の専門的な支援が一部不十分である。	・専門職を採用したが、新規採用1名であり、多くのニーズに対応できない現状がある。	・専門職の人員確保に努めていく。また研修や講習会等に参加し、専門性を高めていく。
3	・当センターを利用するお子さんと地域のお子さんが一緒に活動する機会や兄弟向けイベントの開催ができていない。	・職員の業務量の調整の課題がある。 ・当センターの運営上、休日の開催が難しい。 ・兄弟向けイベントや地域のお子さんとの交流は、他関係機関と日程調整等を行う必要がある。	・当センターでは、保護者交流会を年2回開催しているが、地域のお子さんと一緒にイベントや兄弟で活動するイベントの開催は行っていない状況である。今後保護者の希望を聞きながら、必要に応じて開催を検討していく。